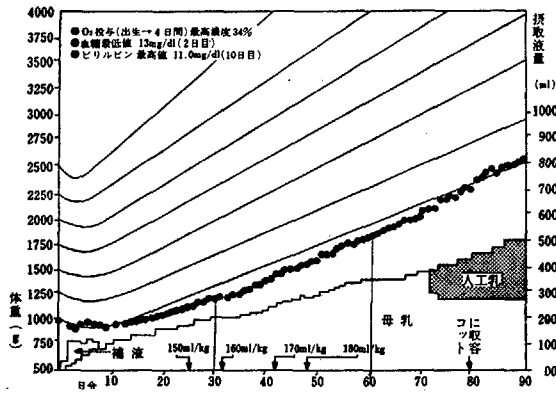


図7 5子(智子)



第1表 5胎出生時の諸計測値 (1976, 1, 31)

出生順	性	出生時間	胎位	APGAR Score (1m)	体重(g)	身長(cm)	頭頂(cm)	胸圍(cm)
I	♂	12:30	頭位	9	1480	43.0	31.3	24.0
II	♀	12:32	頭位	7	1800	45.0	31.5	25.0
III	♂	12:34	骨盤位	6	1130	41.0	30.0	21.2
IV	♀	12:37	骨盤位	9	1300	43.0	29.0	22.5
V	♀	12:39	骨盤位	9	990	36.0	26.9	20.0

結 語:

今回われわれは本邦で初めての5胎妊娠の分娩と哺育に成功したが、これには超音波断層撮影による早期診断と早期入院により十分な母子の管理が実施できたため38週まで妊娠を継続しえたことによるものが大きい。

今後長期にわたる専門家の医学管理ならびに精神身体的発達面の追跡調査などにより5子そろって心身とも健全に発育することを期待する。

五つ子の手部骨，膝部骨 X P の検討

研究協力者 諏訪 琢 三

骨の成長，成熟状態についてXPによる標価を行うことを目的として，次の如き研究を行った。

研究方法:

昭和52年1月25日(満1才)に，手根骨，前腕骨，膝部骨，下腿骨のXP撮影を行い，骨成熟度(骨年齢)，骨の長さ，骨の太さを計測した。手部の骨成熟度はGreulich and Pyleの方法 (Radiographic Atlas of Skeletal Development of The Hand and Wrist, 2nd ed, 195G, Stanford University Press) により，膝部骨成熟度はPyle and Hoerrの方法 (A Radiographic Standard of Reference for The Growing Knee, 1969, CC Thomas,

Spring field) によって評価した。骨の長さは Radius, Ulna, Tibia について, 前後像における最長直線距離を計測した。骨の太さは, 前後像 X P における Radius, Tibia の中心部における横巾を計測して, 太さの表現とした。

結果と考察:

各計測, 標値は表に示す通りであった。骨成熟度は各々の骨により異なるものであるが, 通常は左手根骨が代表として用いられる。従つて骨年齢としては, 福太郎 1 0.5 カ月, 寿子 1 2 カ月, 洋平 9.5 カ月, 妙子 9 カ月, 智子 1 0.5 カ月となる。寿子を除き他はいずれも遅れを示しているが, 1 才児の骨年齢は ± 3 カ月程度のバラツキを示すのが普通であるので, この値をもつて骨成熟の異常な遅れと標値することはできない。しかし, 膝部骨の成熟度標値では各例とも一様に遅れを示しているといえる。

Radius, Ulna および Tibia の長さは, X P で計測したもので, 必ずしも四肢の長さを表現しているものではないし, 正常児についての値がないので長短の判断はできない。しかし, 5 人についてのみ比較してみると, 福太郎が最も成長がよい

		福太郎	寿子	洋平	妙子	智子	
骨成熟度 (月)	Distal End of Radius	<i>l</i>	12	12	14	9	12
		<i>γ</i>	12	12	14	9	12
	Distal End of Ulna	<i>l</i>	12	12	9	9	12
		<i>γ</i>	12	12	9	9	12
	Capitate	<i>l</i>	9	12	9	9	9
		<i>γ</i>	9	12	9	9	9
	Hamate	<i>l</i>	9	12	6	9	9
		<i>γ</i>	9	12	9	9	9
	Wrist total(<i>l</i>)		105	12	9.5	9	105
	Knee		6~9	7.5	9	5~7.5	5~7.5
長さ (mm)	Radius	<i>l</i>	77	75	75	69	67
		<i>γ</i>	76	75	74	68	66
	Ulna	<i>l</i>	88	83	84	77	74
		<i>γ</i>	87	83	83	77	74
	Tibia	<i>l</i>	104	103	100	94	91
		<i>γ</i>	104	102	100	93	91
太さ (mm)	Radius 中心部	<i>l</i>	7	6	6	6.5	5
		<i>γ</i>	7	6	6	6.5	4
	Tibia 中心部	<i>l</i>	10	9	9.5	8	7.5
		<i>γ</i>	10	9	9.5	8	7.5
Rickets		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
Anomaly		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

52. 1. 25日 XP

(諏 訪 三)

といえる。次いで寿子と洋平が同程度の成長を示し、妙子、智子は長さに関しては他に劣るといえる。福太郎と智子との差はRadius については10mm, Ulna では14mm, Tibia では13mmであった。5例のいずれにおいても、左右の長さには差はみられなかった。身長や体重、栄養状態などの相関をしらべる必要があると思われる。

骨の太さがXP像上の巾のみで評価できるとは思われないが、計測上からみると、福太郎>寿子、洋平>妙子>智子という順である。正常児の標準値がないので、絶対的標価はでき難い。太さについても栄養状態、体重、身長などとの関係を見る必要があると思われる。

(骨の太さ)÷(骨の長さ)の割合をみると、Radius(左)に関しては福太郎0.091, 寿子0.080, 洋平0.080, 妙子0.094, 智子0.075となり、Tibia(左)に関しては、この順に0.096, 0.087, 0.095, 0.085, 0.082となる。福太郎が最も高い比を示し、寿子、洋平、妙子はほぼ同程度、智子が最も低い比を示していた。

その他、くる病の変化や骨系純疾患を思わせる変化、小奇形などの所見はみられなかった。

結 語：

骨成熟度は全体として遅れ傾向を示したが一般的にみて低出生体重児の骨成熟度は遅れる傾向であるから、この一時点のみの骨成熟度から将来の骨成熟を予測することは困難であった。骨の長軸方向への成長や太さの成長などは正常児との対比ができないので絶対標価は不可能であるが、5例間で比較する限り福太郎が最も成長よく、智子が最も遅れを示していると言える。今後の経過を追究する必要があると思われる。

五つ子の生活歴

分担研究者 (日大小児科) 馬 場 一 雄

研究協力者 (日大小児科) 藤 井 裕

研究目的：

本邦人にとり多胎児は生れ難いといわれ、わが国における「五つ子」が無事に出産し、5児とも哺育に成功したのは今回が初めてである。

長期生存例として1934年Dionne 姉妹、ポーランド、アメリカの例があるが、これらの「五つ子」例は医学、生物学、心理学の領域に多くの問題を提起してきた。わが国での「五つ子」の記録はなく、「五つ子」の生活歴、とくに身体計測、離乳食、睡眠のパターン、排便回数などにつき記録し今後の多胎児出産時の一つの指標となりうればとの考えより生活歴の記録を作製した。

研究方法：

昭和51年5月12日鹿児島市立病院より日大板橋病院へ転院後においては、未熟児病棟の生活

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります ↓

骨の成長,成熟状態について XP による評価を行うことを目的として,次の如き
研究を行った。